

市政を刷新し清潔な堺市政を取り戻す市民1000人委員会編

第13号



2023年 堺市長選挙 振り返りレポート



2023年6月4日投開票の堺市長選挙結果を受けて、市民1000人委員会は振り返りのつどいを7月2日（日）にフェニーチェ堺・文化交流室で行いました。このつどいは、4年間にわたる市民1000人委員会の活動を振り返り、今回選挙での65%にのぼる市民の棄権をどう捉え私たちの運動の前進面と欠陥を明らかにしどう改善するのかを討論する市民参加のつどいとなりました。つどいには、市外からの参加を含め119名の皆さんのが参加され、15のグループに分かれて討議しました。本レポート第13集では、つどいの全記録を掲載します。

○ 参加いただいた堺市議会議員の皆様（五十音順）

乾 友美さん・木畠 匡さん・西 哲史さん・長谷川俊英さん・林原 徹さん・藤本 憲さん
藤本幸子さん・渕上猛志さん・森田晃一さん



～目次～

司会 吉村 薫さん 市民1000人委員会事務局	
オープニング発言 山部 聰さん 市民1000人委員会事務局	1
報告と提起 2023年市長選をどう総括して行くか 前田純一さん 市民1000人委員会事務局長	2
2023年堺市長選挙各区別得票結果と堺市長選挙の得票数分布の変遷	3
ご挨拶 野村友昭さん 堀市長選挙・市長候補	4
西 哲史さん 「チーム堺」選対事務局・堺市議会議員	6
丹野 優さん 住みよい堺市をつくる会事務局長	7
各区からの活動報告と各区相談会での主な発言から	9
・北区 豆多敏紀さん ・南区 萩野 豪さん	
・西区 菅 平和さん ・堺区 清水昭治さん	
・中区 大町英三さん ・東区 楠本辰作さん	
・美原区 美佐田和之さん	
グループ討議報告 テーマ	12
・今回の堺市長選挙についての感想	
・私たちはなぜ投票率を上げられなかつたのか	
・今後私たちはどう活動していくべきか	
アンケート集約61名のご意見	18
まとめ 1000人委員会の今後と市民共同オフィス 山田憲司さん 市民1000人委員会事務局	25
締めくくり発言 高橋 保さん 元堺市副市長	26
資料	
市民1000人委員会の主な活動・市政レポート4年間	27
市民100人委員会 市政レポート4年間	29
会計報告	30

開会あいさつ

山部 智さん(1000人委員会事務局)



おはようございます。開会の挨拶をさせていただきます。1000人委員会の山部です。

本日は日曜日の午前中という出にくい時間帯にも関わらず、たくさんの参加ありがとうございます。

選挙が終わって1ヵ月が経ちます。だんだんと気持ちは薄れてはきてますが、こうしてこのような場に立つと選挙の事を思い出し、やはり悔しさが湧いてきます。

今回の選挙が市長を変えることのできる最後のチャンスと思って、頑張ってきただけに本当に悔しい思いでいっぱいです。なかなかその気持ちから立ち直ることができず、今の僕には次の市長選挙のことを考えることができません。ただ、もう一方ではこうしたら良いのでは、こんな事もできるのではと、頭の中に浮かんでくる自分もいて、自分の中に2人の人間が住んでいるようで不思議な気持ちです。

まだ自分の気持ちの整理をつけるには時間がかかるのかなと自分自身思っています。そんな気持ちの中ですが、今日はこの振り返りのつどいで、皆さん一人ひとりの思いを聞いて、また僕の中で考える機会になればと思います。

今日はよろしくお願いします。

最後になりましたが、私たちの思いを受け止め、立ち上がってくださった野村ともあきさん、本当に本当にありがとうございます。



保育士等ケアーカー 147名
野村さんのお話しを聞くつどい 開催





2023年市長選をどう総括していくか

市民 1000 人委員会事務局長 前田純一

* 市長選結果 永藤英機 139,295vs 野村友昭 88,077 投票率 34.12% 大敗	2013 西林 140,569 竹山修身 198,431 維新は 4 回の選挙を通じて確実に 14 万得票
2017 永藤 139,301 竹山修身 162,318 市民側は 20 万→16 万→12 万→9 万と連続減	
2019 永藤 137,862 野村友昭 123,771 <u>ここが最大の総括のポイント</u>	

- * 非の打ち所がない候補者 = 野村友昭さん

地域保守層からリベラルまで公共再構築めざす資質

- * 政策 現場で苦闘されている 24 人の方々下案を作り、数次にわたる討議を経た『堺ビジョン』

野村さんが現場の方々との対話から練り上げた『マニフェスト 100』

5/18 政策発表大集会 堺市振興センターホールに 800 人以上

学校給食無償化は市民対話で公約に、永藤の後追い 終盤バズった「学校群」

- * 助走 4 年の市民 1000 人委員会の歩み 市政チェック学習会等 11 回 『市政レポート』12 号

- * 選挙活動 2/18 ボランティアスタッフ大集合 60 人 4/23Part②137 人

各区のつどい：北区 60 余 南区 99 堺区 114 西区 64 中区 70 美原区 55／計 462

全 7 区で、市民 1000 人委員会のネットワーク & グループ LINE 265 人

全戸ポスティング 住みよい堺市をつくる会とも共同してのべ 5 回・121 万枚以上

朝夕の駅前宣伝、市松ウォーク、交差点立ち等々の**街頭宣伝／一人街宣のチャレンジも**

市外からの支援 高槻島本 + 吹田・摂津→北区（全 4 回）茨木→堺区（全回）

15 区→美原区 豊中→西区（全回）大阪市民グループ→南区（全回）

全労協・全港湾・連帶労組等→中区（全 3 回）

- * **市民カンパ** 約 1400 万円 活動資金の相当部分をカバー * **推薦ハガキ** 市民で 2 万枚

- * にもかからず私たちは 66%の市民を投票に向かわせることができなかった

それはなぜか、私たちには何が足りないのか どんな欠陥があり、どう改善するのか

各区の振り返りのつどい討論での注目点

市民を二分する大きな争点を設定できなかった（財政だったが、多くの市民に刺さらない）

ポスティングと街頭宣伝だけでは**仕事と子育ての現役世代の多くを引き寄せられない**

市民が選挙を担いきるには、私たちの能力と覚悟がまだまだ足りない

簡単に結論は出ない重いテーマ 今日を総括討論のスタートに、引き続き議論を続けていく

〔今後の市民 1000 人委員会と市民共同オフィス〕

- * 現在：市民 1000 人委員会賛同人 1294 人、オフィス出資者 44 人

- * **市民 1000 人委員会を存続し、活動を継続するか否か**は今日のつどいで意見を集め、決定する

- * (これまでの 4 年間の活動スタイル) これを継続するかどうか 賛同金：年間一口 500 円

市議会ごとの事務局会議（市議の方々にご出席頂き、論点整理）

市議会ごとに「市政チェック学習会」開催（年 4 回）

市政チェック学習会の報告を『市政レポート』として全賛同人に郵送

- * 存続する場合は、**現役世代が前に出る体制構築**は必須条件

- * 選挙活動を通じて形成された**各区毎の市民ネットワーク**を今後も活かしていく

- * **市民共同オフィス** = 堺東駅前ビル 4 階、家賃 + 水光熱費 + 通信費等で月 15 万円必要

2022 年 1 月から 2023 年 6 月までの期限付で月一口 5000 円出資 この期限到来 1 ヶ月延長

(存続のための提案) 2023 年 7 月 1 ヶ月を意見集約期間として 7 月下旬に判断

・2023 年 7 月～27 年 6 月の 48 ヶ月、**毎月一口 1000 円拠出申込みが 150 口以上集まるか**

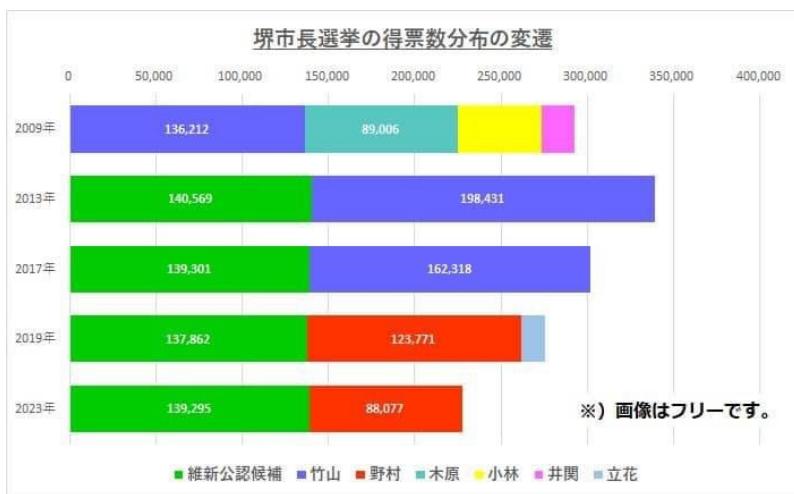
・有志ボランティアで維持してきた**事務所常駐体制**（平日 10:00～16:00）は継続できるか

・集まる見込みが立てば 8 月以降も存続、立たなければ廃止（8 月末撤収）

資料 ①

2023 堺市長選挙各區別得票結果

	有権者数	得票数		得票率		投票率
		永藤	野村	永藤	野村	
堺区	120,371	23,430	17,415	57.4%	42.6%	34.4%
北区	129,218	26,988	18,367	59.5%	40.5%	35.5%
東区	71,053	15,862	10,258	60.7%	39.3%	37.2%
美原区	30,708	6,243	3,161	66.4%	33.6%	30.9%
西区	111,112	22,907	12,915	63.9%	36.1%	32.7%
中区	98,449	17,811	10,507	62.9%	37.1%	29.1%
南区	113,600	26,054	15,454	62.8%	37.2%	37.0%
合計	674,511	139,295	88,077	61.3%	38.7%	34.1%



2023年6月4日



あいさつ

野村友昭さん(堺市長選挙・市長候補)



おはようございます野村友昭でございます。

本当に市長選挙におきましては皆様方から大変大きなご支援をいただきました。心から感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。

残念ながら結果及ばずということで、皆さん方に申し訳ないと思っております。

たしかに、選挙の内容といたしましては、自画自賛ではなく、皆さん方の活動を間近で候 補者として見ていて運動量ですとかその内容ですか熱量、それから思い、そして政策。すべてにおいて相手陣営を上回っていたというふうに私も感じております。これは自画自賛ではなくて、客観的に、私もいろんな選挙を経験しておりますけれどそのような選挙であったと思っております。

ですから意義のある闘いができたということに関しましては私はもう本当に心から皆さん方に感謝をしたいと思います。最後まで闘い抜くことができたのはもちろんのことですけども、立候補ができたというところも皆さん方のご支援があつてのことだと思っております。皆さん方お一人お一人に心からの感謝を申し上げたいと思います。本当にありがとうございました。

本日は、選挙から 1 か月経ったという時期に、こうしてまた再び多くの方々にお集まりいただきまして本当に頭の下がる思いでございます。次の 4 年後に向けてしっかりと歩みを進めていかなければいけないと私も考えております。

やっぱり 1 年か 2 年ぐらいの準備期間が必要ではないかと今回の選挙を省みて私も感じております。それはまあ非常に難しいことだというふうにも思います。

非常に具体的な話になりますけども、おそらく 4 年後は、現職が辞職をしてトリプル選挙だと言っているようで、私もそうなると思います。

これからこの 4 年間のあいだには、衆議院、参議院の大きな選挙が当然ございますし、それからおそらく大阪市では三度目の住民投票ってこともまちがいなくあると私は思っております。万博の開催とかカジノの問題に関しても大きな動きがあるのはもう間違ひございませんので、おそらくこれまでの 4 年間よりも大きな出来事があるこの 4 年間になると思います。

私自身は、大阪の状況っていうものを考えますと、非常に危険な状況だと感じております。特に、大阪府議会と大阪市議会で維新が過半数を押さえてしまっているということで、1 番最初にやってきたのが定数減ということです。

これは、議会制の民主主義にとって、二元代表制をとる地方自治において、非常に危険な兆候が出ているということを私は感じております。このまま 4 年間行ったら、我々の生活、お隣の大阪市ですけど、市民生活を直接にあざかる基礎自治体というものが一体どうなってしまうのかということは私は非常に不安を感じているところでございます。

翻って堺市議会は維新が過半数という形にはなっておりません。ですので、堺市がどれだけ踏ん張れるかということもこの 4 年間で非常に大切なことになると、重要な意味を持つことになると思っております。今日は議員のみなさんもたくさんご出席いただいておりますけども、是非、議会で

頑張っていただきたいと思います。私もしっかりとお手伝い、サポートさせていただきたいと考えております。

後の私の活動についてでございますけども、正直現時点では完全な白紙でございます。ただ、政治活動は続けていくのは間違いございません。それは先ほど申し上げましたように今の大坂の政治状況が非常に危い状況、看過できる状況にないという強い思いからでございます。活動は続けたいと思っておりますが、直接選挙に関わるような、選挙を念頭に置いた活動というものからは少し距離を置こうと私は思っています。なぜか?それは敢えてそうしようと考えております。

いろんな形で政治活動はできると思います。公選職にない方々、私もこの4年間公選職ではない立場で政治に関わってまいりました。ジャーナリストとか研究者とか、あるいは在野の政治家、社会活動家、たくさんの方々が社会を良くしようということで活動されております。

今回の選挙で痛感したのは、やはり選挙というものはチーム、組織でやるもんだなというふうに思いました。私一人の力では、当たり前ですけど選挙は闘えない。今後4年間を考えたときに、チーム作り体制づくりをどう考えていくか。つまり私一人が頑張るのではなく、共に闘える仲間をどれだけ増やすかということに私はなってくるかと思っております。

ですから私一人が政治家になるための時間と労力を使うよりも、一人でも多くの心ある政治家、政治活動家の方を作っていくことのほうが私は重要であると考えた上での決断でございます。そのことに今後は力を注いでいきたいと思います。

具体的な活動に関しては少し時間をとって考えていきたいと思います。4年間は長いようであつという間でございますので、それからいろんなことを先ほども言いましたように、様々な出来事がたぶんありますので、あつという間に4年間は過ぎてしまうと思います。

堺市はもとより大阪全体の将来を考えて今後しっかりと活動して参りたいと思いますので、引き続き皆様方のお力を堺市のために注いでいただきたいと思います。そのことをお願い申し上げまして、私からの御礼のご挨拶とさせていただきます。

本当にこの度の選挙ではありがとうございました。



あいさつ

西 哲史さん(「チーム堺」事務局・堺市議会議員)



皆さんこんにちは。チーム堺の一員として今回の選挙と一緒に活動させていただいた議員の一人としてご挨拶をさせていただきたいと思います。市議会議員の西でございます。

本当に今回の選挙、皆さんと一緒に闘えたことを、まずは心より御礼申し上げたいと思います。現場で本当に多くの皆さんがものすごい熱量で活動していただいていたことに、議員団側もいつも驚きと勇気をいたしていました。今回の選挙で議員団だけでは担いきれないこともたくさんありました。その結果、様々な現場で大きな負荷を追っていました。そのことにも感謝を申し上げたいと思います。ありがとうございました。

私も広報担当の一人として、今回の選挙で反省しなくてはいけないことがたくさんあるように考えていますが、冒頭の山部さんのお話ではありませんけれどもやっぱり1ヶ月では果然としているところもたくさんありますし、総括できていない部分がありますことはご理解ご了承いただきたいなと思います。

選挙の結果や分析については皆さんと一緒にこれからも様々に共有していきたいと思いますが、今回広報担当として選挙直後に作成し、配布されている資料に載せていただいた図のとおり、維新の約13万強の票は変わらないと言っていた中で、我々サイドの投票を行っていただく方をどのように増やしていくべきかということは、いろいろと思うところがありますが、結論は出ていません。4年先に向けても皆さんと一緒にずっと考えていかなければいけないと考えています。

選挙後のこの1ヶ月の中で現市長の話を聞く機会がありますが、「これが野村さんがやっていたらどう変わっていたらうな」「野村さんが市長だったらどんな話をしていただろうな」と思うと本当に悔しくて悔しくてたまらない、というところがあります。しかし、悔しがってばかりでもいけませんので、我々議員団としては、大事な堺の為、市民のみなさんの為、議会の現場の中でこの4年間、堺市政がどのように行われていくかということを、皆さんと一緒に厳しくチェックをさせていただき、ブレーキをするべきところは全力でブレーキを踏む、提言できるところは提言をする、そういう思いで今回の選挙、一緒に活動したみんなで頑張っていきたいなという様に考えているところです。

最後に、4年前に、堺のために野村さんを先頭に市長選挙を闘うと決めた時に「チーム堺」という名前で結集していこうじゃないかという提案をした一人として言わせていただければ、やはり「チーム堺」というのは概念だと思っています。堺のことを大好きな皆さん、堺のことを思う皆さんと共に、議員団も一緒になってこの「チーム堺」という概念で引き続き活動させていただけたらと思います。引き続き様々なご意見をいただくことをお願い申し上げましてご挨拶を終わらせていただきます。ありがとうございました。

あいさつ

丹野 優さん(住みよい堺市をつくる会事務局長)

みなさんおはようございます。

ご紹介いただきました住みよい堺市をつくる会の丹野と申します。

いつも大変お世話になっております。

まず、4年前に続き今回も立候補され、私たちの先頭に立ってご奮闘いただいた野村さんに心からお礼申し上げます。ありがとうございました。

また、結果は非常に残念でしたが、チーム堺のみなさん、1000人委員会のみなさんと共に、私たち「つくる会」も微力ながら最後まで全力で闘えたことに感謝をいたします。

みなさん本当に疲れ様でした。ありがとうございました。

さて、「つくる会」は、前回2019年の市長選以降様々な取り組みを進めてきました。

先ほどもお話がありました、永藤市政が打ち出した「財政危機宣言」が市長選挙を睨んだ政治的なパフォーマンスであるということを事実で明らかにしようと、堺市行財政研究会を立ち上げて、行財政運営を検証したり、学習会を積み重ねたり、パンフレットを発行したり、シンポジウムをしたり、いろんなことに取り組んできました。

さらに、堺市民のアンケートビラをつくり、約850人の声や意見を集約して私たち市民の政策づくりに生かし、全戸配布ビラも配ってきました。

また、今回の闘いで何としても堺市政を変えようと、野村さんや前田事務局長をゲストにお迎えしての学習会や決起のつどいを重ねてきました。

とりわけ4月26日にフェニーチェ堺で開催しました「堺市政を変える。トークアクション」では、野村さんにご講演をいただき、650の方々にご参加いただきました。

これまで本当に様々な取り組みにみなさん方とともに全力をあげ、その力を今回の市長選挙に全て集中して勝利をめざしてきましたので、結果は本当に悔しくて残念でなりません。

何より野村さんに申し訳なく、言葉が見つからないというのが正直なところです。

しかしながら、私たちが呆然としている間にも、第2期の永藤市政がスタートしています。情勢は私たちの心が癒えるまで止まってくれないのが現状であるというのも事実です。

今後、市民の暮らしや地域の状況とは矛盾した様々な施策がござり押しされたり、あるいは堺の自治を放棄するような府市一元化や、先ほど野村さんがおっしゃった大阪都構想の住民投票みたいな話が出てくるかもしれません。

私たちは次の闘いに向けて今から何をすすめたらいいのか、そのために今回の闘いから何を学び、何を生かして何をつくっていくのか、ということを議論しなければなりません。

そういう意味では、今日の振り返りのつどいは本当に求められているタイムリーなつどいであると



思い参加させていただいております。

28日、住みよい堺市をつくる会でも振り返りの会議を行いました。その会議だけではなくて、各団体や、各地域での会議で出ている意見なども集約をお願いしている最中です。よかつたことも悪かったことも次のために必要なことも率直に出していただいて集約をしております。

一例をご紹介しますと、「政策も候補者も本当に素晴らしい、抜群に素晴らしい」これは一番多い意見です。

あるいは、「こういう人が市長になったら市政は必ず変わると思えた」という意見もありました。

「野村さんのマニフェスト100は、市民の暮らしにかみ合った」「対話がはずんで話ができたら支持が広がった」あるいは、「勝てなかっただけれども、4割近い方が維新の思う通りにはなっていない」あるいは、「無党派層の6割が野村さんを支持した、ということはよかつたのではないか」などの意見があります。

一方で「投票率が低すぎた、引き上げるには何が必要なのかを考えなければいけない」あるいは、「『大阪都構想ノー』とか、『堺をなくすな』というわかりやすい争点が必要だったのではないか」あるいは、「もっと早くから運動を始める必要があったのではないか」「日頃からの持続的な活動をしなければいけない」「若者にどう訴えるかを考えなければならない」「投票日そのものも投票に行こうというアピールをしたほうがいいのではないか」という意見もありました。

そして「つくる会がチーム堺として宣伝したり、独自で宣伝したり、わかりにくかった」という耳の痛いご意見もございます。また、告示後の「日刊ビラ」を出しましたけれども、この宣伝も「毎日必要なかったのではないか、それよりももっと早くからやった方がよかつたのではないか」というご指摘もございました。

これらの意見はまだまだほんの一部だと思います。

私たちはこのようなご意見をできる限り幅広くたくさん集約をして、一方的にあるいは一面的に評価とか総括をするのではなくて、議論を重ねることを重視していきたいと思っているところです。

そして、次の闘いの勝利のために必要なことをみんなで進めていきたいと思っています。

今の時点でひとつ言えることは、野村さんが選挙の時に訴えておられました、「市民が苦しい時こそ、公共は役割を果たさなければならない」というのは、今後も引き続き大きな焦点だということです。

まだ選挙が終わって1か月しか経っていません。

正直、終わって1週間くらい私も物事が考えられないというか、考えようとしたら睡魔に襲われて頭が回らないという状況が続きました。

いまは脱しつつあるのですが、とにかくまだ終わって1か月でございます。

ですので、今日も含め、これから引き続きみなさんのご意見をお聞かせいただいて、からの闘いをみなさんと一緒に考えていきたいと思っております。

今後とも引き続きよろしくお願ひいたします。ありがとうございました。

各区からの報告

<北区> 豆多敏紀さん



私たちがかつて経験したことのないような規模の取り組みを北区でもやった、というふうに自負をしております。基本的には様々な団体の援助を受けながらやりました。例えばポスティングは北区7万枚です。これ、全部で5回やりました。

私は、やはり重要なことは住民運動を地元から作っていくということを本当にこの4年間やらなければならないんじゃないかなというふうに思っています。住民運動を作る、どうやって作るのかということをこれからぜひ皆さんと一緒に考えていくみたいなと思います。

【北区】6月10日(土)10:00～12:00 辻尾宅 出席者9名

- ・維新は「現役世代」に焦点を当てている。
- ・給食費無償化に対する野村さんの前進で現役世代が前向きに(大和川クラブに招く)
- ・政策をもっと早く学校群を取り上げるのが遅かった。
- ・うちわだけで盛り上がるのではなく、こちらから市民の中に出かけることが大切。
- ・告示後のつくる会と1000人委員会の齟齬が気がかり。
- ・盛り上がりと結果との落差 私たちは生活に困っている人の感覚が分かっていないのか。
- ・「強烈な候補者」でないと維新には対抗できないのではないかと考えてしまう。

<南区> 萩野 豪さん



2月から市長選挙に向けた相談会をしました。3月21日には、南区のつどいを開催し、99名が参加、泉北ニュータウンすべての居住をカバーすることができました。「こんなことをできるよシート」市民の方々の市政に対する願いを書いていただく、願いごとカード、応援メッセージを1分間動画として独自に作成。

今回、一つ希望がもてたことがあります。それはこの1000人委員会という市民の力を集める場が存在することです。労働組合のようないわゆる運動団体ではない、本当に各地域にいる市民、ご個人が話し合い協力し合って作る市民運動の場が1000人委員会です。

【南区】6月10日(土)13:30～16:30 ビッグアイ 出席者23名

- ・選対・つくる会・1000人委員会の一体感がなかったことが低投票率に。
- ・選対の立ち上がりや2連ポスター掲出がGW明けでは遅過ぎる。
- ・候補者や市民ボランティアが素晴らしいでも広い市民への浸透が立ち遅れ 「顔の見える市政へ」の候補者の顔が見えない結果になってしまった。
- ・チラシも動画も内容がすばらしいが遅くて浸透しきれず。
- ・分かりやすい争点、キャッチコピーが作れず。財政問題は一般市民には難しかった。
- ・「チーム堺は野村だ」と市民には結びついていない。
- ・低投票率に負けた。自公支持者は投票に行っていないのでは 現役世代に響いていない 馬場伸幸の「市民は困っていない」を打ち破れず。
- ・街宣とポスティングでは、投票どころではない層には訴えが届かない。
- ・小集会を多く持つこと、18～20歳の有権者名簿でのアプローチ。
- ・学校群は市民に広げる時間が足りなかった。
- ・5/9 維新が地方議員300人に「一人12時間、600件頑張れ」に負けた。
- ・市外支援者受け入れて大人数で毎夕駅前宣伝したが、同じ場所、同じ時間帯では効果薄い。少人数でも場所、時間を変えた方がよかったのでは。

<西区>

菅 平和さん



野村市長を誕生するためにどういう闘いをするのかといったような観点からの問題提起されなかったことです。1000人委員会からの指示待ちグループだったという風に私は正直思います。受け身の闘いに終わってしまったということは、一番の反省です。

しかし、この闘いの中で、得たことが2つあります。この選挙をきっかけに横のつながりができた。もう一つは、他市との繋がり、こうしたことをエネルギーにして、次の闘いの勝利に向けて頑張っていきたいと思います。

【西区】6月13日(火)17:30～20:00 柴田宅 9名

- ・事前の野村さんの発信、ポスターが遅すぎた 一般市民に届いていない。
- ・あれするな、これするなの制約が多く気持ちが萎えた。突飛なことをしないと。
- ・チーム堺の連帯感が欠けていた。
- ・松井一郎の『政治家の喧嘩力』、泉房穂の『政治はケンカだ!』に学びたい。
- ・維新から市政を取り戻せるラストチャンスと力をふり絞ってできることを全部したので、しんどい気持ちと、次はこうしようという頭とがアンバランスな状態。
- ・投票率を下げようという維新の作戦だったのか。
- ・支援者が、もう一人を連れてくるようなつどいが必要だった。
- ・「子育て教育日本一」「カジノ反対」をスローガンにすべきだったのでは。お出かけ、マイスタディ、日高等は当事者しか分からず、自分事でない多くの市民に切り込めない。

<堺区>

清水昭治さん



堺区でも6月17日に、堺区の振り返りの会をお持ちました。市民1000人委員会、堺区活動記録というのを作っております。今回、一人でも選挙運動するという形が出てきました。今回の選挙の中で、やっぱり新しい動きの一つだったと思います。

1000人委員会を残すことを話し合いました。堺東、オフィスも絶対続けたいということで、私たち堺区ではまとまっております。

【堺区】6月17日(土)10:00～12:00 市民共同オフィス 15名

- ・告示以降のつくる会とチーム堺の齟齬にとまどい。
- ・市長選があることを知らない市民が多い。
- ・「悪口は聞きたくない」という拒絶反応も。
- ・カジノを中心テーマで訴えられないジレンマ。
- ・市民を二分するような大きな争点を設定することができなかった。サービスカットされて痛みを受ける人しか分からないという問題。
- ・無党派層のうわべの層にしか訴えが届かず、中心部分には届いていない。
- ・野村さんが疲れていて笑顔が出なかったのが気がかり。
- ・政党に頼らない市民型選挙の難しさを痛感。
- ・勝ちを呼ぶ「ドラマ」ストーリーが作れなかっただす。維新はでっち上げでも彼らなりのドラマストーリーを作っている。
- ・ポスティングは耕し効果はあるが、他方で限界も。

<中区> 大町英三さん



中区は非常に動ける層、活動家の数が少なくて、そこをやりくりしたり、組み合せたり。(永藤の) 低投票率作戦というか、封じ込め、地域張り付き作戦を突破できなかった。街頭で、やっぱり維新を支持しているけれど、今回初めて、期日前投票で変えたというような発言を引き出した。堺市役所、大阪府庁等、OB会というのは中区で出来ました。そして、元管理職でありました方を中心とか、いろんな幅広い運動とつながることができました。

【中区】6月17日(土)15:15～16:45 ソフィア堺 11名

- ・戸別訪問と徹底した電話作戦が必要だったのではないか。
- ・区毎の地域政策が足りなかった。

<東区> 楠本辰作さん



東区は、活動に参加して、チーム堺東区に参加してくれる人が非常に少ない。つどいも持てない。住みよい堺市の東区と、チーム堺の東区の方が連絡がほとんどつかない。ここが一番の問題だと思いました。一緒になって選挙運動を進めていくことができないと、今の状況は打開できないと思います。

反省のつどいを持ちました。このマニフェストの政策が宣伝しても市民に伝わっていかない。その状況を、現代のその状況をどう打開していくのがいくのかが今は一番考えなければならない課題だということで一致しました。

【東区】6月25日(日)15:30～17:30 北野田 6名

- ・選挙に行かない人をどう行かせるか、選挙のやり方を変えないと。
- ・政治に興味の無い人に当事者の苦しみを伝えても伝わらない。
- ・どう「共感」してもらえるかの工夫を。「正しい」が「面白くない」ではダメ。
- ・維新の「過去には戻すな」、希望の持たない現実のリセット願望にマッチ。論理的に説明できない投票行動、政策を訴えても耳に入らない。路上ではできない。生産と消費の場でどう人々と繋がれるか。

<美原区> 美佐田和之さん



地域集会は、私たちの集会で55名、地元議員の後援会の集会で65名、そして、朝立ち夕立は、美原には駅ありませんので、東区と共同で駅立ちをやりました。あるいは、スーパー前へ街宣等をやりました。

できなかったことがあります。ひとつは、地域課題、これをもとに地域の人と話し合いしたい。野村さんが、せっかくマニフェストにも書いていただいた交通問題とか、美原高校の問題とか、具体的に論議することができませんでした。結局、選挙活動というのは、日常活動の結果が表れますので、私たち、美原区も含めて、4年間、日常活動で何が足りなかつたのかというのを考えていきたいと思っております。

【美原区】7月1日(土)10:00～12:00 4名

グループ討議の発表

各グループ発言

① 森谷美絵子さん

若い人は疲れてしまっていて自分の今の暮らしで精一杯で、周りを含めてよくしていこうという考えにまで至っていないという事が起きているように感じます。これが投票率の低下につながってしまってどんどん政治から離れてしまっているのかなと思っています。コロナのせいにしてしまってはいけないかもしれません人が人ととのつながりが切られてしまってコミュニティが分断されている中での選挙だったのかな、と思っています。だから。これから政治を作っていくのも人と人とのつながりをつくっていくことが政治に繋がるんじゃないか、という意見がありました。投票率の低さは教育者と大人である親の責任でもあるのか、という意見も出ました。支援で来られた方からはバラバラの感じでもっとまとまっていたほうが良かったのではないか、との意見も出了しました。



② 立石篤史さん



選挙の全体の感想としては、維新の組織票というのがすごく強くて候補者が誰であろうがそこは変わらないので、我々はなんとか 15 万票ぐらいをめざして行くという事、支援の方からはボランティアの方がやはり高齢の方が多くて雰囲気が重たい感じがしたという意見をいただきました。

投票率に関してはまず争点が明確にならず財政の問題というのは分かりにくかった。政策の内容がいくら良くてもまだ野村さんの顔と内容を知らないという人が多かったんじゃないか、という意見です。あとは最初から「維新やろ」みたいな感じでいる人が多かったという意見もあります。

今後どうするかですけど、普段からの自分の身近な友達とかに候補者の方とかを紹介していく、一緒にご飯食べたりとかの関係が大事なのかなということとそういう活動を 4 年は無理でも 2 年ぐらいは続けて行きたいという感じです。分かりやすい争点づくりですね、学校群など個別の問題とかそういうのを取り上げていくっていうのが大事かなと思います。

あとこれは個人的な意見なのですが、炎上するのを覚悟で思い切ってネガキャンをやる、維新といえば統一教会とズブズブだとか、吉村洋文は武富士の悪徳弁護士だということを大阪の人は誰でも知っていますよ、という状態に持っていくのはどうかと個人的には思います。

③ 澳 利子さん



やはり投票率低かったのがショックで、それは何故かなあと思ったら、なかなかスタートが遅かった、もう少し早くから選挙戦したら良かったんじゃないか、という行く気にさせるような争点作りが出来なかつたというのが一つの意見です。若い人の関心が低いということともう維新が勝つんだからという諦めがあったんではなかったかと思います。日常的に批判・チェックをしていかないと行けないという事とポスティング・広報では入れられないところがある、そういう本に知らせたい人にどう知らせるのかという課題と若い人にはどうかという課題があります。

私の意見なのですが、維新に勝った杉並や高槻は政党と市民組織が一緒になって闘っているんです。市民型だけでやっていいのかは今後考えて行っていいのじゃないかと思います。

④ 小松清生さん



素晴らしい候補者と素晴らしい政策だった、けれども全てが遅かった。そして、仲間内で盛り上がってたけど市民の盛り上がりを作ることは弱かった。今後の方向としては4年間チーム堺も市松模様のシールも剥がさずお店なんかにもいっぱい貼って頼みにいく。それから、連合自治会で、西区でも馬場への批判がいっぱい出てきている、という話とかもあって自治会とかでも変化起こっているという話もありあちこちで共同できる連合自治会長さんを増やして行って懇談したり共同したりすることもやりましょう。そして、住民の意識が変わっていくような取り組みをしていかないと行けない。若い人たちが自分の要求だと鬭えるような、そこまで行かなくてもせめて選挙ぐらいは行かないといけないなあとと思ってもらえるような広がりを作るための市民活動をやりましょう。実は大和川クラブ有志で懇談して野村さんを呼ぶというようなこともしたんですけど、皆さん確信を持ったんですけど選挙に入ってからなんですね。それを今から4年間やれば今度はもっと頑張れと思うし、ささやかな取り組みをあっちこっちで広めたいと思うし、戦争展のチラシも置かせてもらっていますけどああいう市民活動で市長が悪くても協力してくれて広がっています。そういう場をどんどん広げて進めて行きたい。

⑤ 竹林 隆さん

感想ということですけど、維新の動きがわからなかった、見えなかつたという事が何人から出ました。それにもかかわらずあれだけの数字を取ったのは何故か、ということで逆に維新のやり方を知りたいという意見がありました。

次に投票率の問題ですけれど、選挙そのものがあるということを知らない人が多かった、マスコミの報道の仕方を指摘する声も何人から出ました。投票率を上げる工夫としては例えの例としてもっと市役所に働きかけて投票所を増やす、ショッピングモールだと駅前だとそれは技術的に現在では可能なのではないのか、そういうことを要求しようという声がありました。



今後どう活動するのかについてはいろんな意見があるんですけど、例えば生活イコール政治だから保育とか教育とか介護とかが全部政治と繋がっていると身近な問題を訴えていくということです。運動の側も世代交代をしなくては行けないのでないか。それとジェンダー平等ですね、女性中心にして。対話を広げるという事が重要ですね。それと何でもダメ、維新に対してすべて反対というのではなく、事柄によっては一緒にやっていける事があるのなら共にやりながらこちらの意見も出していく、維新対市民というけれど維新の側にも市民がいる、そこどう繋がっていくのかという声もありました。

⑥ 松永健治さん



有権者の反応がとぼしかった。争点が作れなかった。争点を市民に示せなかったのではないか。市民に届くという意味では変えなあかんという旗印を明確にする事です。その面ではどうだったのか。無党派の市民の方々が投票に行かなかった原因はそこにあるのではないか。その面では財政危機宣言、これが相当入ってしまっていたと思うんです。「あれやる、これやるというがそのお金どうすんねん」という声が私に届くということはあの問題に対して根拠をもって論理的に考えて運動するという癖が私たちについている。維新に

はその癖がついていません。どうしたら市民ウケするかですから、そういう面では私たちは市民ウケするという前提に感性にも訴えることをしっかりと据えて問題と突破することを考えなければならなかつたという深い反省をしなくてはならなかつたと思っています。争点を鮮明にしていかなくてはならなかつた根本がそこにある、と思っています。出口調査を見ますと 78%が永藤市政を評価すると言っているんですから、そういう状態が一つある。これからのことですが、若者をひきつける中味を政策を 30 代～50 代忙しい世代を SNS が大事だと言う声、堺市の市政を学習する集いを、それを知らせるチラシを知らせどんな堺市にするかという前向きの発進、例えば明石市長を呼んだらどうかなど、原点は住民運動を再構築すること、住民の主体者意識を作っていく事と思います。

⑦ 井前弘幸さん

我々が多様な要求に対応できたのか、という事が問題になりました。この規模の会議の中で野村さんの政策に対して「一人世帯の政策についてこのスローガンの中に書いてありますかと、書いてないんじゃないか」と発言がありました。40%が単身世帯という中で私たちは本当に投票に行かない、あるいは政治に対してどんどん後退している人たちの要求を吸い上げて政策化してこれをこういうふうにやっていこうということを本当にできているのかどうかという事が今後の大きな問題となるのではないか、という話が出ました。2009 年の政権交代の時に派遣切りにあって生活が大変苦しいリーマンショックの中にあってこの政党であれば、この政策であれば期待できるんじゃないかというものを持たせたそういう期待という事を政治の中で、堺の市政に対して一つ一つ具体的な政策を、政策の外に置かれている人たちが 3 分の 2 の投票に行かない人達を作っているのではないか、について私たちは考えを改めて多様な要求をどう吸い上げるのか考えていく事が大事だという話が出ました。



もう一つは、知らせる、対話する、そして一緒に動くという事が是非とも必要なので、例えば学校群ならこのことに関心を持っている方が一緒に考えて市民一人一人に訴えていく事が大事ではないか、という話が出ました。

⑧ 山内涼子さん



今回の選挙、浸透まで期間が短くて素晴らしい候補者、素晴らしい政策を市民のみなさんに浸透させる事が出来なかつたんではないか、という事。そして、今後については今までと違う事をしないと維新に勝てないのではないか。これから市民の中で運動を作りあげていく、そして若い方含めて主体的に政治に参加する人を増やしていく。地域ごとの運動を作っていく、そして市民 1000 人委員会以外にも運動を広げて政策を広げていく。維新の場合は非常にムード作りがうまく、幻想・嘘であってもわかりやすく浸透させていく。この手法を学んでいくべきではないかというような意見が出ています。そして、維新はお金や公的な物を公から民に流していく。これについては地元の議員さんとしっかり連携してウォッチしていくべきではないか。そして、今の市政に慣らされている感がある。素晴らしい候補者であったのに選挙に行かなくてもこのまま大丈夫なんだというムードがある。やりがいのある選挙であった。対話ができた、公園の若者とも対話できこういう事を進めていけばいいんじゃないか。こんなに頑張ったことはない。維新に期待している人に訴えきれなかった。もっと維新そのものと闘わなければいけない。以上です。

⑨ 阪口香月さん

まず最初に、落胆した感想が共通して出ました。夢が潰えた等々。市外から来られた方はポスティング等お手伝いいただいた時に反応が不透明だった、とおっしゃっていました。期待が大きかった分、落胆も大きかったということだと思います。



何故これほど投票率が低いのかという問題ですが、100%有権者の中でもどんな時でも投票行きますよという人は 30%ぐらいしかいない。10%が場合によっては行きますよ。残りは行きません。これまでの経験で。だからそれぞれの層に見合ったアプローチが必要。特に維新の支持層は今まで行かなかった層の人たちが投票に行ってますから、もし維新が相手でない選挙だったら実際はもっと低い投票率であった可能性がある訳です。だから私たちは、場合によっては行きますよという人たちと行ったことないんですよという人たちに、どういう焦点を当てるかが大事。維新は多分そういう人の心理を掴んでやっている、理屈だけでひきつける、それは大変難しい事。感情や感情をどう捕まえるのかが大事だという話になりました。

⑩ 長谷川太郎さん

感想についてですが、得票率・投票率ともにとても低く大きなショックだった。野村さんの政策は良かったのに投票率が上がらなかったのは大きな争点がなかったからではないか。選挙期間が 2 週間は短い、1 ヶ月くらい欲しい。市外から来られた方ですが選挙が盛り上がって見えるように見えない、身内だけで市民の中でそんなに盛り上がっていなかったのではないか、市民型選挙になつていなかつた。一般の市民の人がマイクで発言したり女性の方が発言した方が良かったのではないか。みなさん共通して言っていたのは出足が遅い、早く候補者擁立して宣伝していきたかった。今回市民としての横のつながりが弱かったのではないか。



投票率に関してですが政治に対して無関心、堺市政に関しての無関心が強いのではないか。30代 40 代の現役世代への訴えが弱かった。SNS を活用できていない。維新という政党に負けて、維新対市民という対立を明確にする戦略がなかった。大きな争点が無かった。もっと学校群を大きな争点として闘つたら良かったのではないか。そうしたら投票率を上げる事が出来たのではないか。

今後の活動についてですが、もっとプロデュース力を上げる事が必要性がある。女性をもっと登用してほしい。宣伝を日常的にやっていった方がいい。諦めない。市政をしっかりと見張る。候補者を早く決める。女性候補者がいいんじゃないか。市民型選挙、政党が前に出ないで 4 年間市民運動として活動を継続していく。

⑪ 福山功勝さん

選挙の感想ですがみんな頑張った、熱意も大変素晴らしいかった。若者も現役世代も頑張った。しかし野村さん自体の名前の浸透不足だった。



投票率が低いのは、例えば身体が悪くて投票に行けないという方も何人かおられたということとコロナとか今の現役世代の厳しい労働環境、そして政治不信、それが大きいんじゃないか。

今後についてですが、日常の積み重ね、一言で言うとそういうことです。これを可視化しますと「笛ふけど踊らず」という、この場合の笛を吹く人野村友昭、

よかった、でももう少し早くパフォーマンスしてほしかった。笛、これは受け皿です。各支援団体、ここには政党なんかも含めていろんな支援団体、つくる会・1000人委員会・チーム堺とある訳ですね。そういう人たちの中でいろんな格好で調整されたかもわからないけれども今後どういうふうに総括されるのか、それが受け皿。曲はメロディ・リズム・歌詞は政策とかみな良かった。でも聞こえなかった。踊る人・有権者、無関心。踊れないし踊らない、ということです。

⑫ 翼照子さん



こういう政治活動に初めて参加した人から、まず野村さん本当にお疲れさまでした、ということ。みんなの気持ちが出ました。精一杯みんなが力を尽くして頑張った。力一杯やった結果ということで今後に繋げたいということで、投票率が低かったことについてはやはり政治に無関心であるということが私たちの生活とどう関係するかということをきちっと言っていかなければいけない、そのために提案なのですが財政危機宣言が出たので市民の危機宣言を出したらどうか、1000人委員会でパンフレット作ったりしてなんで生活、学校群とか大きな問題が出ているのにそれが伝わっていない、それが危機だと言うことで大きく訴えて広げていく日常の活動が必要。住民自治・地方自治を一人一人の市民の力で作ると言うことが大事だと言う話が出ました。

1000人委員会も今後も続けていこうということでおわりました。

⑬ 藤本幸子さん

市長選挙の感想でいいますと、政策は大変わかりやすくてこれを本当に実現すると明石市のように若い人たちが増えるのではないかと思えた。しかし市民に対して「選挙に行かないと」と感じさせる事が出来なかつたというご意見がありました。また、私たちは大変盛り上がって活動したけれども市民の方から見れば組織のように見えたのではないか。また対話されている中で誰がなっても同じではないか、という人がいた、また堺市では少数者・マイノリティの方の声の届くようなそんな堺市なっているのか、という意見を感じたという事もありました。大阪市の住民投票の時のような多様な市民がここに参加するというような形が取れなかつた。またワンイシューで堺市民に届くようなものが出せなかつたのではないか、スローガンも抽象的なものだったのではないか、という感想がありました。



低投票率については「どうせまた維新ではないか」と諦めて投票に行かなかつたのではないか。また、選挙そのものがあるということを知らない方が結構いた、ということです。投票に行ってもらおうと思えば投票に行く動機といったものがなかつたら投票に行かないということで、やはり動機づけが必要だつたのではないか。またビラはたくさんまいたがどれだけそれが読まれていたのか、紙だけに頼っていたのではないか、投票しやすい環境だつたのか、子どものいる人・女性・投票しにくい人の意見をどれだけ聞いていたのか。

今後についてですが、日常的な活動を積み重ねていく事と市政チェックは引き続きやっていただきたいという事でした。

⑭ 岸上真理子さん



感想としては、新たな取り組みが様々でき選挙には負けてしまったけれど維新を打ち破るような力を少なくとも示すことが出来たのではないか、という意見が出ました。維新の方は盛り上がりがなく選挙に行かないようになる働きかけがあったんじゃないか、という疑いを持っている方もおられました。維新は投票率を下げることに徹していたのではないか、という意見でした。また高齢者の方が投票に行けないとかあったのでサポートが必要ではなかったか、という意見がありました。また顔が見える市政というキャッチコピーがピンと来なかった、もっと分かりやすいキャッチコピーがあれば良かった。若い方が関心をもってもらえなかったという意見がありますが新たに若い仲間も増えたという経験もありました。自分の生活と政治をしっかりと捉えた訴えができれば支持は広がるのではないかということです。選挙中に野村さんの政策に永藤の方が政策をコロコロ変えてきたので永藤市政になってしまったけれど市政チェックを進めて市民の望む市政をやらざるを得ない状況をつくっていこう。

1000人委員会の活動も続けていきたいということでした。

⑮ 山上雄大さん



最後ですのでこれまで出なかった意見を中心に報告していきたいと思います。市外からの方や4年前に誰に入れたか覚えていない方もおられ多様な意見交換ができました。

その中でも印象的だったのは、1000人委員会があって参加しやすかった、活動しやすかった、という意見が出ました。

投票率の低さに関しては、やはり興味関心という意見がある中でなぜそういった所に繋がらなかったのかという点で選挙というと子育て世代の方々からすると「対立している」というイメージの方が大きい。その中で、一人の候補者を応援して選挙に参加する楽しさといったものを共有していきたい、という様な意見が出ました。今後の活動としてそういう楽しさを共有するためにももっと政治を近く感じてもらえるような例えは報告会とか議員さんとの距離感とかそういったことを身近に感じてもらえるような活動を広げていくことで今後の4年後の選挙につながっていくのかなあ、とまとめました。



振り返りのつどい アンケート集約 61人

NO	今回の堺市長選挙についての感想	私たちは、なぜ投票率を上げられなか	今度私たちはどう活動していけばいい	その他自由意見
1	今回は勝たなければならぬ選挙と思ったが、今まで以上の活動を組織できなかった。学校・公務員・職場で制約が多く活動が退職者中心になってしまった。自身は退職して色々やれることが多くて良かった。	20代から50代までの現役世代の心に訴えられなかった。生活の大変さが政治によるものでありながら、その政治が変えられる変革できると言う訴えが浸透しなかった。	市民1000人委員会住民運動と関わって意義があるので、継続してほしい。生活を豊かにする住民運動、民主主義を守る取り組みを継続して取り組まねばならないと思います。	退職して、年齢を重ねていくたびに、自分のできるだけの活動からより広く多くの人に訴えかけられる活動をしていきたいと思います
2	堺市民はやれている。外から見ると見えていたので、結果は残念。	市民の政治への無関心、政治への嫌悪感、日々の生活がしんどくて、選挙どころではない。ここを変えるのが政治だと思ってもらうことが必要。	暮らしと政治をつなげること、市民や主義を選ぶだけが政治ではない。選挙=政治と考えるのではなく、市政を市民にとってより良いものにすること。	市民活動の目指すべきこと。1000人委員会が、日常的にチェック要求していくべき。その先に代表を選ぶ選挙がある。本来、民主主義は直接民主主義なのです。
3	前回の選挙より、街宣ポスティングでがんばって取り組んでいたと思っていたので、この結果にはショックでした。しかし、中身は主体的でなかったのではと反省しました。	投票が大切と訴えたが、理解してもらっても投票に結びつけるように個別の取り組みが必要だったのではと思いま	これから4年間地道に永藤姿勢をチェックして、その時々の問題点をタイミングで知らせていくことが大切。ミニチラシで多くの機会に。	地道な活動をするため、1000人委員会の継続とオフィスの継続を続けたいです。
4	自分が全力投球しているつもりだったので、身内の盛り上がりが心強く感じていましたが、身内だけにとどまったのかと思う。	基本的に投票に行かねばと言う意識が低い中、短期間に意識を変えるのは、困難。短期間にその気になってもらうには、強烈な訴え、心を揺さぶるもの投げかけねばならない。それがなかつたので、投票に結びつかなかったのではと思う。	地道な正当な動きを柱にしながら、多くの人に危機意識を持ってもらうような訴え（線を越えてはいけない。ギリギリの線で維新に負けないような極端な派手な方法で）をする。	堺市の赤字危機宣言は強烈で刷り込みのようにも堺市民の中に入っています。後で否定しても効果なし。堺市危機宣言を大きく発していきたい。堺市自治がなくなり、大阪に吸い込まれる危機を大きく訴える。
5	お疲れ様	つながることを広げることを力いっぱいしましたが。	区ごとの1000人委員会を充実させていきましょう。	住み良い街づくりのため、子どもたちの未来のため、まず私から主して一人ひとりに広げます。
6				NO.7テーブルのまとめを聞いて、これから4年間一人一人の願い（多様な要求）をどれだけ自分事として自分自身が動いていけるか？それが4年後の姿勢を変えられるか？のために自信を持って動いていこうと思いました。
7	維新政治の素顔を浮き彫りにすることだ。堺市つぶし（市民の暮らし）破壊を目の前に示していくこと、堺市を変える力を持っている。			
8				以上3つはグループ討議で伝えました。市長選に関わってくれた方に7月2日を説きました。その時の事ですが、ひとりひとりが意見を出すのかと聞かれて、多分そのような進め方だと思うと伝えたところ「欠席するわ」との返事でした。カンパやレポートを読んだりしてくださっている方です。1000人委員会の中でも今後の進め方で変わり得る方がいると思っています。4年後の自分の歳を考えるとどれぐらいできるか不安はあります。
9	残念の気持ちでした。	地域に入り込む、日常の活動が必要。		地域地区ごとの1000委員会の会議、集い必要。
10	残念。この一言に尽きる。本当によく尽力したのになんで票が減るのか悲しい悔しい。残念。	今の市政でまあいいかと思っている人に訴えきれなかった。「維新市政でこんなに悪くなったよ」そして「小さな一票でも変えられる。変えて、希望ある暮らしにしよう」と切り込みたかった。それができなかった。	これまでの宣伝をしっかりやること。そして、これまでとは異なる活動を見つけないといけないのですが、まだ見つかっていません。	

振り返りのつどい アンケート集約 61人

NO	今回の堺市長選挙についての感想	私たちは、なぜ投票率を上げられなか	今度私たちはどう活動していけばいい	その他自由意見
11	政策は良かった日々ひびいた。SNSも拡げ対話できた。次回も野村さんに。	もう少し早く動きたかった。少なくとも2年位。	身近に勝手連など多く、運動できる人を作り出す要求を可視化していく。維新対策考えるべき。	
12	多数の市民の声にも耳を傾けながら、野村さんが練り上げたマニフェストは素晴らしいと思った。その内容を街宣で市民に伝える活動はやっていて気持ちよかったです。	市民が自分の生活と堺市の政策との関係を考えて、どの政策が自分の生活を向上させるのかを見抜く力を失っているのではないか？	堺市政の動きを注視して、適宜、市政の批判的分析の学習会をして、そこでわかったことを市民に広く知らせていくことが考えられる。	
13	結構楽しく活動できた。政党支持では、異なる人とも話ができるよかったです。人と話をする際は、謙虚さが必要であることを肝に命じること。維新は大阪では大組織政党であることをしっかりと押さえることが大事。			
14	投票率の低さがなんといってもショックだった。	大きな争点を作り出せなかった事はあると思う。市民の中に新自由主義的な考えが浸透しており、公共の大切さがこちらが思うほど響かなかったのではないか。	ポスティングだけでは限界。SNSの活用（空中戦）若者に政治に関心を持つてもらえるにはどうしたらいいか研究すべき。	杉並でも、市民とリベラル系政党が組んで勝利している。政党との関係も課題では？維新に勝った高槻・寝屋川の市長選も市民と政党との共同で勝った。
15	毎日みんなでがんばりました。多くの対話をできました。	やっぱり力が足りなかったのですかね。でも、あまりにも市民の皆さん選挙の事興味なさすぎです。	このまま頑張れば良いのではないでしょうか。	大変でしたが、とても楽しかったです。ありがとうございました。
16	結構頑張ったと思う。ドキュメントVRを誰か作ってくれたらいいのにと思う。	市民を興奮させられなかった。でっち上げでもいいから、わかりやすい争点を作る。 【争点】維新の支持者は、維新以外を既得権者、裏で政党とつながっていて、何か〇〇ことをしていると言うイメージを持っているらしいです。	楽しそうに、目立つように、政治談義をどこでも活発に。身内の悪口はダメ。アメリカのティーパーティー運動のように。（その主張に賛同しているわけではありません）	こういう集まりの時、報告者が全員年長の男性、そこに若者や女性が立つようにならなければと思います。そうじゃなければ、若者や子育て世代の参加は難しいかも。最後の発言者の時は、若い人や女性が多く立っていました。希望が持てると思います。
17	本当にがんばったと思う。候補者も政策も良かったのに、少し遅すぎた。団体間の遠慮もあり、それぞれの団体がそれぞれの色で自由に活動できたらよかったです。政黨の支持支援を受けないことが野村さんとのことを分かりにくくてたのでは。	心に届く、我が事となる争点がなかった。マンション等チラシも届けられないところが増えている。	維新の批判もっとしても良いのでは（悪口とかの批判はあるが）マスコミ対策を真剣に考えていかなければいけない。市民とリベラル政党との関係、共同をもっと打ち出すべき。	討論時間短すぎた。各区の報告はなくともよかったです。
18	候補者は誠実に社会を良くしたいと考えている人。政策も市民要求に沿ったものだが、市民の隅々に届けられなかつたのが残念。各団体の連携が充分でなかった。	堺市として選挙へ行こうアピールが小さい。投票所の設備（駐車場の準備等）が不十分などの意見が出ていますが、投票者が投票できる環境作りも大切です。		
19	選挙を実行する司令塔が存在しなかった。ワンイシューの争点に絞ることができなかった。選挙とは何かを理解していない人が多かった。	日常的活動が一人ひとりに浸透していなかった。投票動機をつくり上げられなかった。	ワンパターンの活動だけでは広がりがない。継続した活動の中で、人を掘り起こすことが必要。	党派に頼らない動きができるのか、本当の市民運動ができるのか問われている。
20	維新評価が高まる中での市長選であったと思います。堺市長の実績、市政評価、個人評価等が市民に問われない選挙になってしまった。いわゆる維新と言ふ政党看板選挙であった。維新政治にどのように対抗していくか、今後の活動のあり方と難しさを感じる市長選であったと思います。	統一地方選挙全体として投票率が低調であったが、特に維新は選挙戦術として投票率を上げない戦術をとっていたのではないかと思われます。	市政改革、維新政治批判、政策の焦点作り、市民目線に立った市民への発信が求められるのではないでしょうか。	堺市政にこだわらず維新政治そのものの批判活動と野党、批判勢力、市民の受け皿作りと、対抗できる候補者作り、市民を代表できる候補者を作り出すシステム作りが求められているのではないでしょうか。

振り返りのつどい アンケート集約 61人

NO	今回の堺市長選挙についての感想	私たちは、なぜ投票率を上げられなか	今度私たちはどう活動していけばいい	その他自由意見
21	多くの方々（若い方から年配の方まで）が活動し、活動自体は盛り上がったと思いますが、その盛り上がりを堺市民全体にまで広げられなかったのが残念でした。	<ul style="list-style-type: none"> ・ワンイシューで市長選を盛り上げさせる。 ・独身者も含めた多くの市民の要求をすくいあげ、政策に盛りこみ、市民を巻きこんでいくことが必要。 ・4年間地道に市民と対話をつみ重ね、支持者を増やす。 <p>→これができていなかった。上記の活動をおこなうことで、投票率を上げ、支持者を増やす。</p>	市民1000人委員会が中心になって、さらに市民運動を広げていきましょう。	
22	敗れはしたが、維新政治とたかう堺市の運動の力を示すことができた選挙だったと思う。	政治と生活のかわりを日常的にわかりやすく広げていくことが必要	市政チェック運動をつづけていきましょう。この取り組みに、どれだけ巾広い人に参加してもらえるかがカギだと思う。	
23	<ul style="list-style-type: none"> ・動き出すのが遅かった。（維新が動いてるのに何もできず・・・） ・維新以外の政党の協力不足。野村ポスターにチェンジしていない為「維新対市民」とは思えない状況だった。 ・自治会のつどいとかもっとすべき。訪問先で「前回つどいしたのに今回はなしだった。協力しようと思わなくななる」との発言ありました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・選挙をたのしむことができていなかった。（わくわく感、関心をひくもの不足） ・SNS拡散力不足 ・逆算して動き出すべきだった。 ・同年代の訴えは聞いてくれる。現役世代には現役世代のやり方でつながり訴えていくことが大切。（悪口、ケンカ腰はNG！聞く耳をもっていない） 	<ul style="list-style-type: none"> ・4年間活動をする（市民運動として）選挙の時だけでは息は合わせられない。 ・投票日にもっとやれることがあった。「選挙に行こう」アピール不足 ・市民ボランティアを通年募り、メンバーを増やしていくべきだ。 ・期日前投票がスタートする日が投票日と考え行動すべき（もっと早く言うてくれたら入れたのにと言われた。維新に投票したと） 	<ul style="list-style-type: none"> ・野村さんのYouTubeチャンネルを作って4年後に現役世代にアピール。 ・SNS担当者を今から育成すべきだ。
24	リーマンショックより続く貧困と分断が大阪で広がっている状況をなんとかしないと。	身近なところからの対話での生活に希望を話せるように	生活に希望が持てる運動と連帯	
25			<ul style="list-style-type: none"> ・堺市政を全方位で詳細チェックする市民レベルのシステムを作り、維持し、結果を公表していく。（地方行政を学ぶ勉強会を定期開催してもよい） ・若者に5年後の生活はどうなるのかイメージしてもらう方法を。自公政権と維新の伝統的政策は、子ども・学生をバカにしている。教育は”投資”手段と割り切り、”人”を大切にする観点が抜けている。若者を政治から切りはなす政策が行われてきた。 	
26	皆さん、本当によく頑張られました。	それどころではない生活の市民、恩恵を受けていないと感じる世代、変える必要という大義もなく、期待も生まれなかった。	実績のある明石元市長など、ヨーロッパのコモンなど紹介を。	
27				すばらしい集いでした。次回にむけてこれから頑張っていきましょう。主催された方ご苦労さまでした。
28	残念でした。もりあがっているように思いましたが、仲間内だけだった。選挙のやり方もかえていかないといけないのでは。	選挙に行くこと、政治に参加する事がどうしたらいいのかわからない人達がたくさんいる。選挙に行くことで、自分たちのくらしが変わる、変えられる事をつたえていく。	政治（困り事を）話せる場をたくさんつくり、議員さんとつながる、あえる話せる機会をふやす。市議会見学会、議員事務所に遊びに行こう。	今の暮らしをかえる意識を持つ。
29	残念、悔しい。	大きな争点をつくれなかった。財政危機宣言に、市民にひびく有効な対応ができなかった。	日常活動を強めよう	
30	新しい支持者を得られうれしかった	当事者を増やし当事者意識をたかめることができなかった。	「若者に訴える」ではなく、「若者は何を考えているのか」「若者と・・・」の発想を行動に変える	課題は山積しています。ますます堺の活動に注目したい。

振り返りのつどい アンケート集約 61人

NO	今回の堺市長選挙についての感想	私たちは、なぜ投票率を上げられなか	今度私たちはどう活動していかばいい	その他自由意見
31	前回は都構想と堺の関係を問う一争点は明確にできた（相手からの仕掛けもあった）。今回は現市政の評価を問う一市民には判断する根拠不充分。私たちの運動が一方的な働きかけ。肩越しに呼びかけても耳には届かない。心の奥に届ける言葉。私ごととして訴える側も届ける相手も手繕り寄せられるかが鍵。	政治へのあきらめ。維新の支持者は現在の生活や将来に不安をいだいており、「今を変えてくれる」との漠とした期待。他の有権者は市長選挙と自分との関係を主体的に捉えるところまで＊＊なかったのではないか。私たちの運動の一面性も限界。	日々の暮らしや生活、労働の場で、そこで起こっている具体的問題でとことん話し合う関係性や場をどうつくりあげるか。	1000人委員会の事務所を残し、市政チェックを今こそもっと大事に。
32	市外から参加しましたが、身内でもり上がっている感がすごかったと思います。候補者の顔や名前が、上手く広がっていました気もします。	そもそも、政治に興味のない市民が多いと思います。30・40・50代は特に、日々の生活でいっぱいいっぱいでテレビを見る時間よりも、スマホを触る時間の方が多いです。	SNSでの活動を活発にしていくことで、少しでも若い人たちにまず政治に興味を持っていただきたいです。	
33	市長選挙が盛り上がりなかった。維新的動きがにぶく投票率が低かったのが残念。子育て世代は余裕なくあまり動けなかったが、野村さんに来てもらい、教育子育てを考えるつどいを少人数でできたのは良かった。	わかりやすい争点、すばらしい野村さんの政策が広められなかった。インパクトがなかった。	一緒に動いてくれる仲間作り。政治=生活 困っていることを出し合える仲間。学校群など関心のあるテーマを扱う。	
34	高橋さんの最後の一言「選挙に負けてこの熱気は何やねん？」これに尽きる	TVとマスゴミにやられた。	地道に「知らない人たち」と繋がるしかない。	段取りの方々ありがとうございました。これからもガンバリましょう。
35	維新は低投票率なのにむしろ前回より1400票も上積みしたが、いまだ納得できない。やるべきことをやりつくすのに精一杯だったが、途中の選挙戦の状況判断を適確にできなかったものか。	維新をよしとする市民の思い、考えをもっときちんと知るべき。充分そこに焦点あてた議論が必要。自分の票が政治を変えるんだという当事者意識をつくりだせなかった。	地域要求の積み上げが大事だと思った。野村さんのマニフェストをしっかりと学び直し、市民が政治にどうアプローチしていくかをそれぞれの地域でつくりしていく、公共の再構築。その担い手としての1000人委員会は大事だと実感。	維新支持層と交流できる広いとりくみをもちたい。
36	どのチラシも充実した内容だったので読んだ人が少なかったのかな。	候補者は3年以上普段から地道な活動をする必要がある。	佐藤美津子さんの意見にほぼ賛同	
37	住みよい堺市をつくる会の一員として、組合として、活動でき、よかった。毎日の駅宣は、雨もあり、工夫がたいへんでしたが、大阪市内、枚方交野、遠くから毎回5～6人応援していただき、勇気をもらいました。「どうせ維新が勝つやろ」「だから投票行きたくない」との声の多さにおどろいた。これを打開できなかった。	マスコミの動き、TV、ほとんど「市長選」の報道がなかった。焦点となるコロナ対応や、カジノ、子育て、たくさんの中のテーマが取り上げられていたら市長選への関心は高まつたはずです。権力側の維新のやり方、マスコミの利用があったと言えます。選挙後に親なきあとの障害者のたいへんさや、作業所の運営の困難さ、報道されましたが、実態は選挙中にやってほしかったです。	勝ち負けに関係なく投票率を上げる手だて。駅前でできるとか、シャトルバス（無料）を出すなど、堺の選管として可能なかぎり行えるように市民運動として。「堺の街」を市民は注目していることを表すための投票率を上げる活動は必須。	医療従事者の一人として、堺のこれからの医療、ベッド削減がどのような計画がおこるか不安でたまらない。人口減少に早く、手をうつ必要があると思っている。
38	まだまだできる余地はあったが、議論ができてなかった。	知事選、大阪市長選の大敗は、心理的な冷え込みを作るのに充分でした。	<ul style="list-style-type: none"> ・まず、もっとフットワークを軽くすること。 ・あんまり前のめりすぎない様に。 ・党派性を捨てて、無印良品になる事を希みます。 	市民オフィスをもっと安いところにできないのですか？月5万ぐらい。 お金のかかる市民運動にならないよう（紙類が多い）
39	内側にいる者にとっては、ものすごく盛り上がっているように見えて期待感が高まったが結果を知り落ちこんだ。	街頭にあまり立てなかった。数少ない機会の中でも市民の人々との対話がありできなかった	維新支持の人とは対話しやすい（反応があるから）が、無党派の方々との対話のチャンスをどうして作っていくかが課題です。	日常的に生活に根ざした対話ができる場をつみあげていくことが大切

振り返りのつどい アンケート集約 61人

NO	今回の堺市長選挙についての感想	私たちは、なぜ投票率を上げられなか	今度私たちはどう活動していけばいい	その他自由意見
40	4年間の市政について、きわめて不十分であったことが明らかになり、前進した政策もあった（体育館エアコン、第二子保育料無償化等）		<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの運動を否定するのではなく、これまでの運動に付加していかなければいい。「ここではないどこか」に夢を求めるすることはできない。 ・友達に候補者を紹介していく活動「あの人は自分の知り合いやねん」という気持ちにさせる。 ・子や孫、近所に話ををしていけるように、話をできるように工夫する（若者とか、今いない人の参加をどうやって増やすのか） ・市民生活危機宣言（市民の声をきいてほしい） ・応援する楽しさ、感性、市民ウケ、シックとした立ちふるまい。 	
41	よくやった！でも遅かった。狭かった。 。	運動が狭いから 市民のしんどさ、政治との距離 うめることできず。	4年間たたかいつづける。チーム堺 何人もの「顔」目立たせつつ、宣伝をつづける。あの人人が候補者かな？と思われるような 市民要求で、運動頑張る。	若い仲間とどうつながる！ 参加してくれる若い人たちの声を聞きながら。
42	主にピラまきをしたが高齢なので何度も戸別配布をするのはしんどかった。北区で野村さんを呼んでの集いに参加する。南区でのグループ劇は楽しかった。 児童自立支援施設の件では市長選挙に勝利するのが一番早い解決方法だと思ったがその方法が取れない今、私たちが行っている裁判が、改めて意味あることだと思っている。	私たちのせいではなく堺市民の想像力のなさから危機を感じていない。	それぞれに地道な活動を続けるしかない。中区がやっているような勉強会を各区でやることが一番。 1000人委員会の求心力をどうするのか。誰かが中心にならなければしんどい。 。	堺には市民1000人委員会以外、まだまだ多くの市民活動をしているグループがある。 例えば町づくりグループなど、それらの人たちと協力して広げていかないといけない。
43	候補者の予定を詰めこみすぎ。 大変にみました。	私たちが上げれなかったのではなく、維新が上げなかったのではないか？	選挙に向けてではなく多様なテーマを設け、横のつながりを作っていく。	
44	候補者もマニュフェストも素晴らしいのに大敗したのは本当に悔しい。	多くの人は大過なく生活できており。その人たちにとってマニュフェストの項目は他人事にしか見えなかつたのではないか。 こちらの訴えが届きにくかった理由では。	日常	
45	予想できない結果		<ul style="list-style-type: none"> * 「告示日」が「投票日」というスケジュールで取り組む。取り組みが遅かった。 * 選挙母体、維新に対して「チーム堺」として取り組むこと 	
46	*やりきれなかった反省 *伝えるべき内容を絞りきれない マニュフェスト、1000人委員会マニュフェストの中から伝えたいことを	さらなるネット活用→なぜ維新がダメなのかを市民が伝わらなかつた。	1000人委員会を広げる 各地区の問題を、野村さんや1000人委員会のマニュフェストに沿って具体的な解決・提案を自治会、今後は議会なども通じて伝えていく。	チーム堺、1000人委員会を広げて、日本の政権交代を維新などに任せない堺の自治の力を日本に示す活動につなげて行けたらと思います。
47	組織的に動くとは…。★（読めない）の市民の動く★（読めない）…。 これらがうまくいっていなかった。 後半に、私たちは力強くなつたと思う。	「私たちお一人様のことが何も書かれていらない」という提起は大きい。 収入あり、子どもあり、家庭ありの人々への「ピラまき」のような集票の一方で、取り残されている人々の存在は、私たち以外に注目できる人はいないと思う。（下線部分：要求の外におかれている人々） その方を拾い上げていかないと投票率は上がらない。	市民1000人委員会は4か年継続すべき。 市政チェックも継続し、「堺市政の今」を例えれば1か月に1回「知らせ」共有し、「対話」の場をつくり、一緒に「動き」を、各課題について関わっている団体。個人が共同して作っていく	投票率を上げるための具体的な政策は何か。声を上げられない人々の声をカタチにすることに、まず重点をおいた話し合いを。

振り返りのつどい アンケート集約 61人

NO	今回の堺市長選挙についての感想	私たちは、なぜ投票率を上げられなか	今度私たちはどう活動していけばいい	その他自由意見
48	一生懸命やったのに結果が信じられない。	これだけ素晴らしい公約を上げているのに、堺市民が必要ないと思っているとしか考えられない。市民の多様な要求を吸い上げられない。	あと4年しかないと危機感を持ち、1票でも多く集めていくしかない。	
49	選挙の告示後は候補者カード、あと1台しか音出しがない今の選挙。告示後では街中は静かで「どうなっているのか」市民はいつ市長選があったのか、もう終わったのか、市長候補は何人で、誰が出ているのかも知らない状況が広がっている。運動する側の工夫をもっと考えていく必要あり	選管の役割も追求すべき。各家庭に(選挙民)に選挙に行くこと、投票に行くことを徹底して知らせる役割があるのではないか。	共同のあり方、各団体の力を發揮するための工夫 例えば堺市全体の街を埋めつくすような、子どもも参加できる街を歩く(要請カードを持って) 前半、中盤、後半・・・	
50	市民型選挙をめざしたが、できていたのか?	*街宣とポスティングだけでは上がらない *何が足りないのか *対話も必要 *争点を作る!!	早く次の候補者つくる	
51	1000人とつくる会などの活動の違いを表で見る機会が多かった。例えば北野田駅では全く別。それは支持者への配慮なのかも知れないが、それでは一つになれない。 結果、最終日はどの街宣でも運動員の腕章が余っている。選対のボランティアの取りまとめはどうなっていたのか?	素晴らしい公約を伝えきれなかった(論点がボケた)ので争点がぶれた。逃がさない争点を強く押し出し切っていない(公約が多い)	熱量を下げずに行政の不備、学校群の事などを伝え続けること。	・田舎などでは実施・検討されている移動型投票所など働きかけていけたら。 ・投票率を上げるための試みは、選挙のムード作りにも議員さんの活動でつくれたら。 ・維新の会を支持する事は、自分の信じたい物語であるからして、これに打ち勝つには合理的なレスではなく、それを超えて物語を表現する事を考えてはどうか?
52	それぞれの方がそれぞれの形で、全力で頑張れた。	市民の方々の興味、関心を引き出せる大きな争点を見出せなかった。	もっと身边に感じてもらえるように、社会の変化に合わせた活動が必要。	4年度に向けた市政チェック学習会・事務所維持等活動を続けてほしい。
53	とにかく大敗でショック!	若者の政治離れ。固定票を持つての自民、公明の市長選の取組不足。もしくは足の引っ張り。 また共産党の高齢化	今までの4年間の日常活動(特に市長選挙に直接結びつく活動が少なかった(足らなかった)。今年から候補者選びをしてみっちり4年間市長選に取り組む。スピード感が必要!	とにかくスタートが遅すぎた。そしてこちらの陣営の高齢化。駅立ちでも地味、元気ない。ビジュアルで維新に負ける!若者への取り組みが大事。
54	候補者が決まるのが遅かった。そしてチーム堺の選挙事務所がどこにあるかもわからない。ビラに電話番号が書いてなかった。野村さんの名前が知られていないのがとても大きいし、市長選挙があるのも知らない人が多い。広報にのっていても見ていない。選管のアピールももっと強めるべき。	若い人の関心が少ない。 高齢者が多くなり、投票に行かない人がふえている。	維新の悪い点を日常的にアピールしていく方法をよく検討して行動していく。 投票所を身近な所に設けて投票しやすい環境をつくる。 市長の権限や予算の使い方を日ごろから勉強して宣伝していく。	・100項目は少し多すぎると思います。維新からあれもやるこれもやるとできもしないことを云っていると批判されている。 ・純粋に市民型選挙と云うのは、とても難しいと思います。政党も参加して一緒にやる方がよいのではないかと思いました。
55	多くの反省点があがりましたが、今回の堺市長選は候補者も支援者も全力で頑張り、市民運動も機能していたと思います。こうやってれば勝てたということは何一つなかったと思います。	そもそも運動で投票率を上げることは不可能だと思います。 前回は現市長の突然の辞任に伴い新市長を選ばなくてはいけないというモチベーション、そしてもう1つは大阪都構想に巻き込まれる不安感が投票行動に繋がりました。今回は現職市長の続投ということでよっぽどの失点がない限り投票率は上がらないと思います。	もはや大阪の現状を考えると堺だけでどうにかできる問題ではありません。私の提案としては、大阪で反維新的勢力で地域政党を立ち上げてそこに候補者やボランティア、カンパなどのリソースを集中させる。有権者へ特に選挙の時にもう1つの選択肢を提示、単純化させる。維新はもはや戦時中のナチスであることを自覚し、大阪全域の運動として考えないと少なくとも草の根で首長選に勝つことは不可能です。	上記でも書きましたが、堺だけの運動ではなく大阪全域で政党をつくり、戦うしかないと思います。大阪では何年も同じことを繰り返しています。リソースを無駄にしない為にも新たな戦いをする必要があると切に思います。
56	皆様の誠心誠意のご活動に感動しました。野村様は大変素晴らしい方思います。	政治への無関心 他人事 誰がなっても同じ。社会は変わらないという諦め。	日常活動の積み重ね プロデュースと作戦	世の中が社会が少しでも良き方に変わっていくようこれからも活動にご一緒させていただきたいです。

振り返りのつどい アンケート集約 61人

NO	今回の堺市長選挙についての感想	私たちは、なぜ投票率を上げられなか	今度私たちはどう活動していけばいい	その他自由意見
57			投票率は低くなってしまったが、9万人近い人が今の市政ではダメだと思って変えたいと思っている。この思いが広がるように要求運動を広げていきたい。 どう要求を受けとめるか。スーパー前街頭でのシール投票など 市民オフィスは存続させたい。友人知人に声かけます。	チーム堺、1000人委員会、つくる会の連携がとれていなかったのではないか！？幅広に個人、団体で市民連合（？）として市長選をとりくむなら、政党色を出さないといいながら創志会、自民党の議員が前に出ていたことに違和感をもった人多かったです。4年後は超党派、個人団体の共同が作られるようその運動も必要ではないでしょうか。
58	野村さんの政策はわかりやすく実現すれば子育て中の若い人が堺にやってくると思った。しかしビラを市民がどこまで見ていたのか？疑問だ。団地などにまかれたビラが一階の不要物置場にいっぱいになっていた。多彩な公約メニューは有った。しかし何が争点か？市民にとって選挙に行かねばこれから堺市政が大変になる、自分にとって堺市政に何を望むのか、わからなかつたのでは？また、市民がハッとするような実態を示す打ち出しが必要ではなかったか。おでかけ応援の公約破りなどの「嘘を平気でつく市政か」「市民目線で安心の市政か」等のポスター、ビラが必要だった。	街中で選挙やっている雰囲気が少なかった。駅などでは盛んに日刊ビラ配布やシール投票をやっていたが・・・「静かに終わらそう・・」という相手の手中にハマってしまった感がある。完全無所属もいいが各政党が生き生きと活動できるやり方の方が雰囲気を作りお互い元気が出るのでは 1000人委員会、住みよい会、チーム堺と三団体で頑張っているが掛け持ちしている人はシャツ、旗、ビラなど戸惑った。 また選挙戦の途中で一体どれくらい野村さんの声が浸透しているのか？全体的に把握をしている司令塔が分からなかったので、自分たちがやっている感だけが有り、がんばっているという反面で不安も感じられた。 1000人委員会で練り上げて行った政策や市政チェックを日常的に市民にビラでしらせ街頭で訴えることがないと市政に関心を持たれないのでは選挙に行かねば暮らしが良くならない、というのが浸透しなかった。	永藤市政を從来通り監視し、チェックして議会の本会議や委員会にも誘って出かけ市政を身近なものに感じられるように、今何が話し合われているのか、市民目線でよいのか、おかしいのか。 野村さんの公約との対比でどうなのか？ それらを市政ごとにビラや街頭で知らせてゆく事が必要だと思います。 「市政が身近らに」「自分の願いが届いているのか」 市民が常に市政、議会に目を向けるような活動が必要ではないか。	
59	・維新を支持している人に向けてのアピールをするのは不毛の土地を耕すようなもの。聞く耳をもたず自分で考えることができない人が多い。エネルギーがもったいない。・88077人の人以外の、投票に行かなかった人に新たな展望（非現実的と感じさせないもの）、ふと耳をかたむけるもの。いいことを言っても「本当にそれをするかどうかわからない」の声を聞く。・今、特に大変困っていると感じている人が少ない。仕方がないと思っている人が多い。・現実的と感じられる、希望を持てる新しい堺の姿をかける		・現市長のしていることの許せないものに対してどしどしと署名活動（例学校群・・・）をして修正させていくことも必要。署名活動はそれを説明することでの他のことも一緒に伝えやすい。伝える手段 ・堺の自治危機宣言 財政危機宣言に対抗する堺の町乗っ取られ宣言 ブックレット、パンフ（まんがのようにわかりやすいもの）	
60	1000人委員会、チーム堺、住みよい堺のみなさんがしっかり引っぱってくれたことで、自分なりに楽しんで取り組むことができました。	選挙は相手を倒して勝ち負けを決めるものという印象は、普段政治から遠い人は、さらに近づきたいと思えないのではないだろうか。みんなでやさしい世の中をつくるように、温かな活動であれば入りやすいのではないかと思いました。	政治は選挙の前だけ活動強いているイメージを多くの市民が持っていると思います。次は4年をかけて、政治と暮らしあながりがあるということを会話やイベントを通じて、興味のない人にも伝えていけたらよいと思いました。	
61	真の多数派は選挙に行かなかった人々だということを改めて思い知った。	特効薬はない。アイデア不足の問題ではない。世界の問題だ。	多様な住民要求に基づく住民運動を一からつくること以外にない。それを街頭に出て広めていく。市民運動の原点に戻る。市長選に勝つのは12年後でいい。	子育て世代、若者に焦点があてられがちだが、40%の単身世帯は主流かも。ここに焦点をあてる。

まとめ

1000人委員会の今後と共同オフィス

山田憲司さん(市民1000人委員会事務局)



1000人委員会の今後と共同オフィスについて、まとめの発言を行います。市民1000人委員会事務局の山田です。

4年前の振り返りの集いのレポート持っていました。この時は、1万数千票差の僅差で敗れ今後どうしていくのかを私たちは熱く討議していました。そして、1000人委員会を継続させてきました。

まとめに先立ちまして、今日の振り返りの集いには市議会議員の皆さん、府内の各地域から多くの皆さんに参加いただきました。まずはお礼申し上げたいと思います。共に頑張っていきたいと思います。

「捲土重来」とか「悔しさをバネに」などと選挙で負けるとよく言われます。私ごとで恐縮ですが、これらの言葉はどれも当てはまりません。この結果を結構重たく受け止めています。府内から注目されています。今日も多く皆さんにお越し頂いています。堺はこれからどうするのか。と注目されています。

1000人委員会が注目されているのはよいのですが、市民の皆さんにどれだけ注目されているのか、がこれから鍵なのではないかと思っています。私たちの運動が市民的な共感をうる運動としてどうしていかなければならぬのかをしっかりと考えていく振り返りのつどいではなかったかと思うのです。

各区からの報告や各グループからの報告は、1000人委員会の活動継続を前提としての報告が全てでした。継続・存続するから若者にこう訴えよう、こういう運動を進めよう、これらが皆さん討論の中から出されてきたものです。

二つ確認をしたいと思います。

一つ、市民1000人委員会は今後も活動を継続すること。今日のつどいの振り返りレポートを作成していきたいと思います。

二つ、運動の拠点である堺東の市民共同オフィス。150口（月1000円）以上の協力があればオフィスを維持することができます。さらに幅広い皆さんのご協力を得て維持させたいと思います。7月末までに150口以上です、皆さんのご協力を訴えたいと思います。「オフィスもなくなったらこれは落城したみたいやないか」と言われた方がおられます。皆さんのご協力で市民運動の拠点として「落城」させないようにしたいと思います。

そして、私たちの運動を今後さらに発展させましょう。今日の討議の内容を一言でまとめることはできません。もっとしっかり検討しなければ次に向けてのステップにまだいかないと思いますが、ぜひそういう運動を皆さんと一緒に今後とも進めていく事を確認し、今日のまとめの発言とします。

以上です。ありがとうございます。



締めくくり発言

高橋 保さん(元堺市副市長)



お疲れ様です。大変時間も押していますし、各テーブルから丁寧な討議の報告も頂き、これからも 1000 人委員会の活動を是非継続したい、事務所も皆さん方とともに力を合わせ、維持し持続的に活動できるようにしたいとのご提案も頂戴しました。これ以上私から申し上げること等はないのかも知れませんが、一言。この選挙負けたのですよね。それにも拘らずこの熱気はどうしたことでしょう。これはこれから、何事かが始まる予兆いや決意の場なのかとさえ見紛うほどです。

これ、当たり前じゃないですよね。選挙に負ければ、その負けた原因をそれぞれ自分はさて置きあいつがとかこいつがとか、あげつらうことは珍しくありません。しかもここに参集されている方々は動機の点では様々であり、決して一色ではありません。ですがグループ討議の中で、有権者の方々にはひとつの政治集団の活動と見られていたのではないかとの発言がありました。ちょっと残念な評価です。

違いますよね。そのことを一番知っていたのは自分たちです。日頃から親しい人もいれば顔なじみでない方、いやそれどころか余り話したくなかった人もいて、そういった関係性の人々が市政を市民の手に、その一心で協働し今ここに居合わせる、この巡り合わせがどれ程得難いことか、私たちには理解しています、今日までの奮闘に先ずは敬意を表し、確信を持ちましょう。と同時にそこに止まつていられません。

肝心なのは市民一人ひとりが、市政をあるいは政治を自分自身のこととして考えるためには、私たちはどういう働きかけをしなければならなかったのか、ということが問われていたのだと思います。候補者も政策も優れていることを私たちは良く分かっていて、真実を市民の皆さんに一方的にお伝えし、お知らせしてご一緒しましょうと呼びかける、こんな私自身の運動スタイルでは市民は絶対に客体から主体には変わらないと言うこと。その人が抱えている生活課題や労働問題を聞き取れる関係になれなかったら、私たちの運動は先々躊躇でしょう。

為すべきはそう、人々の暮らしや仕事の実相に迫り、課題や問題の発生源に遡る過程を丹念に紐解くことが曲りなりにも出来た時、関係性は飛躍するということをわたしは選挙期間中若い保育士さんに今更ながらに教えられました。こうした事例、取り組みを丁寧に集め記録してみてはどうでしょうか。選挙期間中、人々の心を繋ぐ出会いの数々。それをこそ宝として市政チェック、市政改革への新たな一步を踏み出す機会とすべく念じまして、閉会のご挨拶いたします。



資料①

市民 1000 人委員会の主な活動

1月 8日(日) 新春キックオフのつどい(サンスクエアホール・205名)

29日(日) スタッフミーティング(市民共同オフィス)

2月 18日(土) ボランティアスタッフ大集合(堺市産業振興センター・60名)

23日(木) 住みよい堺市をつくる会集会(サンスクエアホール)

24日(金) 東区・賛同人相談会(東文化会館)

26日(日) 堺区・賛同人相談会(市民共同オフィス)

3月 4日(土) 南区・賛同人相談会(喫茶結)

10日(木) SNSチーム相談会(市民共同オフィス)

11日(土) 野村ともあきさんと語ろう これからの北区(あおば福祉会ホール・60名)

堺区・賛同人相談会(市民共同オフィス)／西区・賛同人相談会(ウエスティ)

12日(日) 中区・賛同人相談会(ソフィア堺)

19日(日) 堺区・賛同人のつどい(堺市総合福祉会館・28名)

21日(火) 野村ともあきさんと共に南区のつどい(梅文化会館・99名)

24日(金) 野村ともあきさん市長選立候補表明記者会見

26日(日) スタッフミーティング(堺市総合福祉会館・35名)

4月 9日(日) 統一地方選前半戦(知事・府議・堺市議)投開票日

12日(日) 堺区・賛同人相談会(市民共同オフィス)

15日(土) 中区・賛同人相談会(ソフィア堺)／南区・賛同人相談会(喫茶結)

23日(日) ボランティアスタッフ大集合 part2(堺市産業振興センター・137名)

25日(火) 東区・賛同人相談会(北野田)／西区・賛同人相談会(ウエスティ)

26日(水) 市政を変えるトークアクション(住みよい堺市をつくる会・650名)

30日(日) 語ろうあしたの堺・堺区のつどい(堺市総合福祉会館・114名)

5月 4日(木) 南区・賛同人相談会(梅文化会館)

7日(日) ボランティアスタッフ地域代表者会議(市民共同オフィス)

8日(月) 堺市長選・勝利にむけた大阪アピール学習会(大阪市中央区民センター)

10日(水) 野村さんを囲む美原のつどい(美原文化会館・55名)

13日(土) 野村ともあきさんと堺市政を考える中区のつどい(ソフィア堺・70名)

14日(日) 野村ともあきと語る西区のつどい(ウエスティ・64名)

15日(月) 野村事務所オープン／以降、市民 1000 人委員会事務局選挙事務所に常駐

18日(木) 野村ともあき政策発表大集会(堺市産業振興センターホール・800名)

20日(土) ボランティアスタッフ地域代表者会議(市民共同オフィス)

21日(日) 堺市長選挙告示

この間 駅頭宣伝のべ127回以上・スーパー前等宣伝のべ44回以上

ウォークのべ7回以上 · 市外からの支援

全戸ポスティング のべ5回・121万枚(つくる会と共同で)

6月 4日(日) 堺市長選挙投開票日

10日(土) 北区・振り返りのつどい(8名)／南区・振り返りのつどい(23名)

13日(火) 西区・振り返りのつどい(9名)

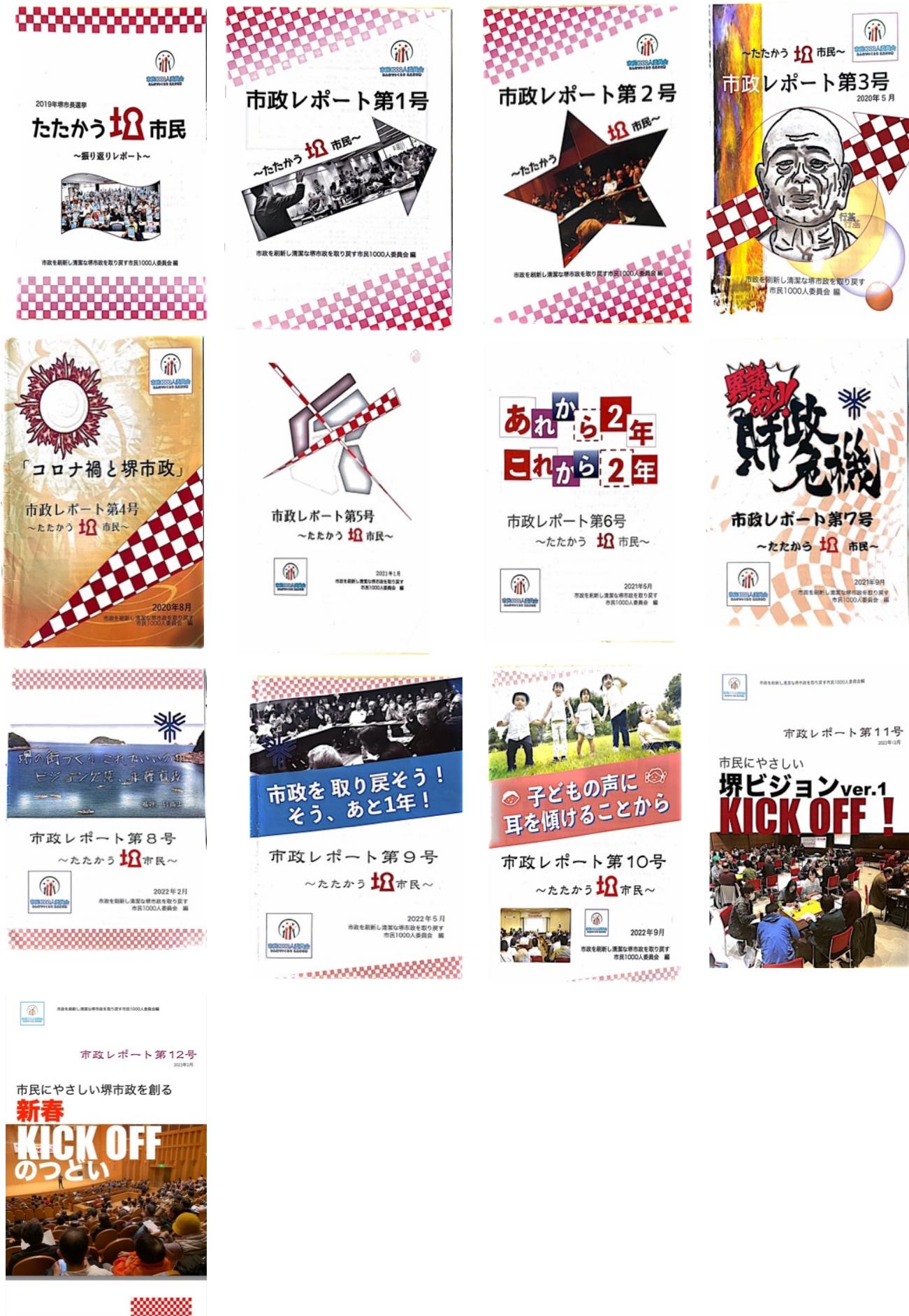
17日(土) 堺区・振り返りのつどい(15名)／中区・振り返りのつどい(11名)

25日(日) スタッフミーティング／東区・振り返りのつどい(6名)

7月 1日(土) 美原区・振り返りのつどい(4名)

7月 2日(日) 市民 1000 人委員会・振り返りのつどい(フェニーチェ堺・文化交流室)

資料② 市民 1000 人委員会 市政レポート 4 年間



資料③

【市民にやさしい堺市政を創る特別カンパ・会計報告】

自 2023/1/1 至 2023/6/30

〔収入の部〕 カンパ収入	13, 987, 999円	77人
〔支出の部〕 野村ともあき後援会へ	13, 249, 999円	直接振込分と斡旋移動分
差引手許残金	738, 000円	
1000人委員会活動費	621, 326円	各区つどい・通信費・アルバイト給与等
収支差額	116, 674円	
(内訳) 現金	16, 674円	
預け金(ゆうちょ通常貯金)	100, 000円	／ 計116, 674円

【市民 1000 人委員会・第4期会計報告】

自 2022/05/01 至 2023/06/30

〔収入の部〕 賛同金収入	877, 110円 (賛同人 1294 人、6月 30 日現在)
販売収入	46, 600円 (『市政レポート第9・10号』)
YouTube 視聴料	11, 500円 (市政チェック学習会)
寄付金収入	3, 462円
収入の部合計	938, 672円
〔支出の部〕 会議・集会費	169, 723円 (市政学習会、討論会、キックオフのつどい等)
通信費	514, 047円 (『市政レポート』発送費)
印刷費	608, 701円 (『市政レポート』等)
消耗品費	36, 916円 (封筒、用紙等)
支払手数料等	4, 275円 (振込手数料)
支出の部合計	1, 333, 662円
〔当期収支差額〕	▲394, 990円
〔前期繰越金〕	777, 915円 (第3期末: 2022年4月30日)
〔残高〕	382, 625円
(内訳) 現金	50, 268円
郵便振替口座	212, 052円
ゆうちょ通常貯金	120, 605円
	／ 計382, 625円

2023年賛同金(一口500円)をお振込み下さると幸いです

* 郵便振替口座: 記号 00930-7-番号 325186

加入者名: 市民 1000 人委員会 シミンセンニンイインカイ

* ゆうちょ銀行・通常貯金 記号: 14010 番号: 69946591

加入者名: 市民 1000 人委員会 シミンセンニンイインカイ

他の金融機関から振り込む場合は、【店名】ヨンゼロハチ(四〇八)【店番】408

【預金種目】普通預金 【口座番号】6994659 (7桁)

2023年7月発行
編集 市民1000人委員会
発行者 市民1000人委員会
〒590-0959
堺市堺区大町西三丁1番29-502号
TEL 072-229-6331
FAX 072-242-6315
Email Q Y D04504@nifty.com



～たたかう 堀 市民～

振込先

◆郵便振替口座

加入者名：市民1000人委員会 シミンセンニンイインカイ
記号：00930-7-325186

◆ゆうちょ銀行 通常貯金口座

加入者名：シミンセンニンイインカイ
記号：14010 番号：69946591

※他の金融機関からの振り込みの場合は

店名：四〇八 ヨンゼロハチ

店番：408 種目：普通預金 口座番号：6994659

価格 300円

